

◆ 今週のコメント

- ・手足口病の定点当たり報告数は1.54で、過去5年平均値(0.54)を上回り、これは本年に入って最も多い報告数です。全国でも報告数は増加傾向にあり、コクサッキーA群16型が多く検出されています。
- ・レジオネラ症の報告が1例あり、本年の累積報告数は13例となっています。これは、平成12年以降の同時期(1月～6月:0～6例)と比べ、最も多い報告数です。

◆ 今週のトピックス:<麻しん>

- ・21例の報告があり、週単位で見ると、第24週の12例が本年に入って最も多い報告数で、本年の累積報告数は54例となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・二類:結核 6例(喀痰塗抹陽性 2例, 無症状病原体保有者 1例)
【1月以降の累積報告数 173例(喀痰塗抹陽性 55例, 無症状病原体保有者 14例)】
- ・三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2, O26 VT1VT2) 2例【1月以降の累積報告数 19例】
- ・四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 13例】
- ・五類:麻しん 21例【1月以降の累積報告数 54例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.78	196
	② 手足口病	1.54	63
	③ 水痘	1.44	59
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.22	50
	⑤ ヘルパンギーナ	0.59	24
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<麻しん>

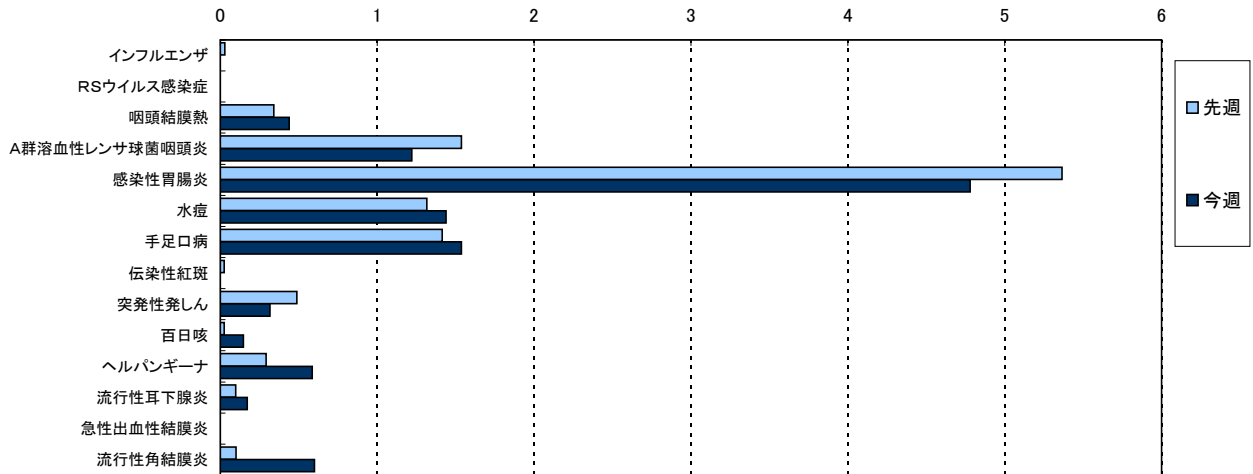
(注)京都市のデータは、平成20年6月20日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

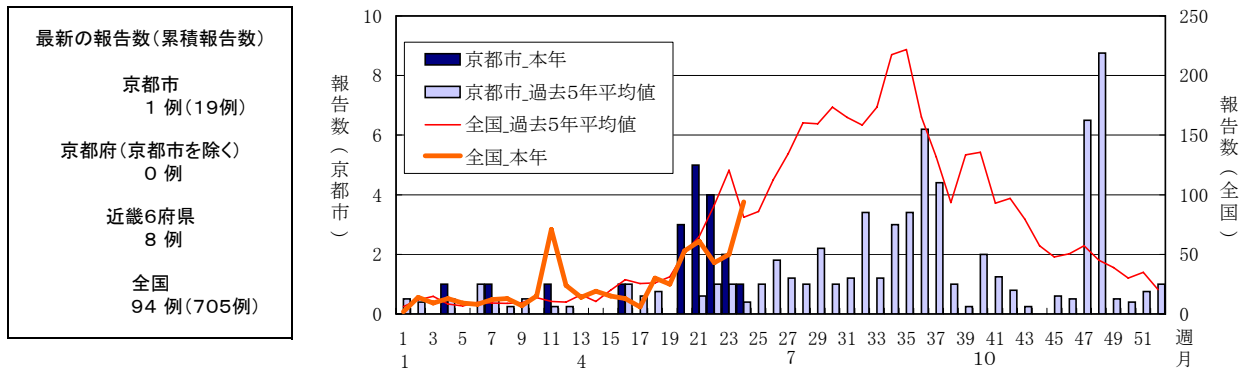
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第24週)と先週(第23週)の定点当たり報告数の比較

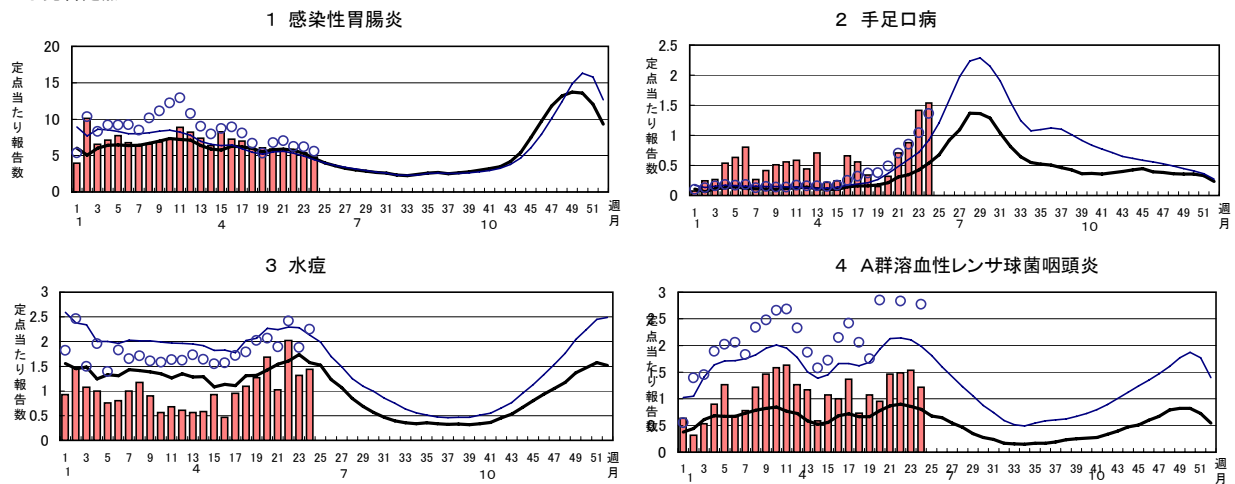


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

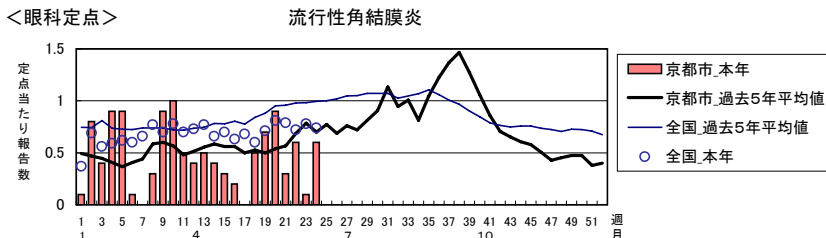


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第24週のトピックス：＜麻しん＞

21例の報告があり、週単位で見ると、第24週の12例が、本年に入って最も多い報告数で、本年の累積報告数は54例となっています。

54例の内訳を見ると、年齢群では、15～19歳が23例で、全体の42.6%を占めています。

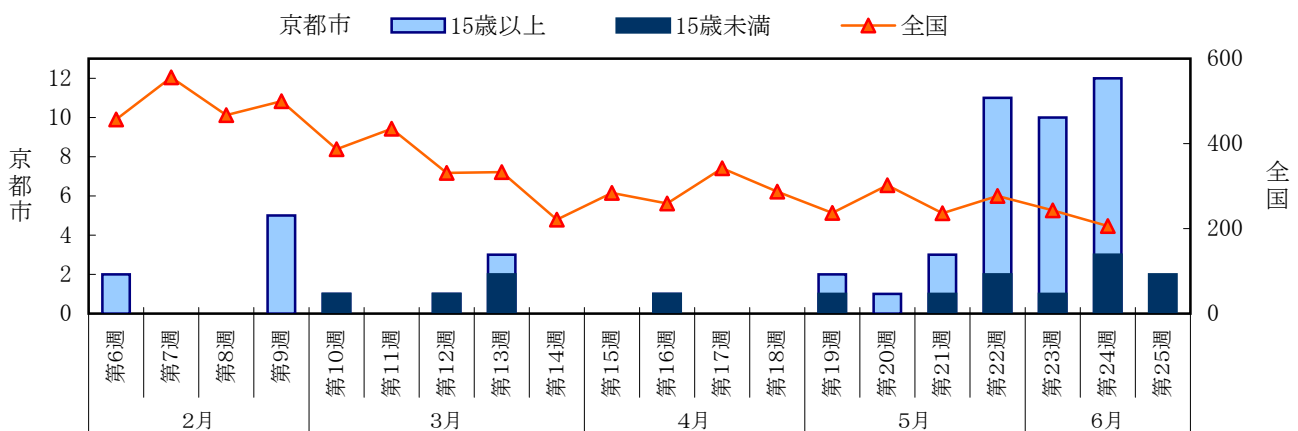
病型別では、麻しん(臨床診断例)が36例、麻しん(検査診断例)が15例、修飾麻しん(検査診断例)が3例です。

ワクチン接種歴では、1回接種ありが12例で、接種時期は、0歳時が1例、1歳時が5例、3歳時が1例、不明が5例です。

推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染が28例、接触感染が7例、不明が23例です。

なお、個々の報告例の詳細を、週報3ページ目の「平成20年 京都市麻しん発生状況 速報」に掲載しています。

平成20年 報告数の推移(～平成20年第25週)



ワクチン接種歴 / 性別 / 年齢群 (人)

	ワクチン接種歴						全体			
	有			無 又は 不明			男	女	計	%
	男	女	計	男	女	計				
0～4歳	1	0	1	2	1	3	3	1	4	7.4
5～9歳	1	1	2	1	3	4	2	4	6	11.1
10～14歳	2	0	2	3	0	3	5	0	5	9.3
15～19歳	5	1	6	10	7	17	15	8	23	42.6
20～24歳	1	0	1	2	5	7	3	5	8	14.8
25～29歳	0	0	0	3	1	4	3	1	4	7.4
30歳以上	0	0	0	3	1	4	3	1	4	7.4
計	10	2	12	24	18	42	34	20	54	100.0

病型別 内訳 (人)

麻しん(臨床診断例)	36(8)
麻しん(検査診断例)	15(2)
修飾麻しん(検査診断例)	3(2)

()内 ワクチン接種歴あり

推定感染経路 (人)

飛沫・飛沫核感染(*)	28(5)
接触感染(*)	7(2)
不明	23(6)

(*) 一部、重複あり

()内 ワクチン接種歴あり